

## 30年2月分 素材生産業者の活動・先行き動向調査

1. 調査実施期間 平成30年 2月1日～ 30年2月10日

## 2. 調査実施方法

全国の素材生産業者に対し、アンケート調査票を送受することにより実施した。  
2月分の回答企業数は9社である。

## 3. 判断指数の算出方法

各調査項目について以下の方法でウェイト・ディフュージョン・インデックスを算出した。

Weight.D.I.(ウェイト・ディフュージョン・インデックス)={「増加」の評価を行った回答の割合}×2+{「やや増加」の評価を行った回答の割合}-{「減少」の評価を行った回答の割合}×2-{「やや減少」の評価を行った回答の割合}÷2  
したがって、この割合がゼロの場合はその増加と減少が等しいことを示し、プラスになるほど増加が多く、逆にマイナスになるほど減少が多いことを示す。

## 4. 調査結果の概要

## 素材生産動向

品目		30/2月	3月	4月
伐採動向	スギ	△ 40.0	△ 30.0	0.0
	ヒノキ	△ 25.0	△ 25.0	△ 37.5
	カラマツ	△ 50.0	△ 50.0	△ 50.0
	エゾ・トド	16.7	0.0	△ 16.7
出荷・販売動向	スギ	△ 30.0	△ 30.0	△ 20.0
	ヒノキ	△ 25.0	△ 25.0	△ 37.5
	カラマツ	△ 50.0	△ 50.0	△ 50.0
	エゾ・トド	△ 16.7	33.3	△ 66.7
手持立木在庫動向	スギ	△ 30.0	△ 10.0	20.0
	ヒノキ	△ 12.5	0.0	0.0
	カラマツ	△ 50.0	△ 50.0	△ 50.0
	エゾ・トド	△ 33.3	△ 33.3	△ 16.7

・スギの伐採動向は2月、3月の減少から4月は横ばいに。ヒノキ、カラマツとも3カ月連続減少。エゾ・トドは2月の増加から3月は横ばい、4月は減少に。

・スギ、ヒノキ、カラマツの出荷・販売動向は3カ月連続減少。エゾ・トドは2月の減少から3月は横ばい、4月は再び減少に。

・スギ手持立木の在庫動向は2月、3月の減少から4月は増加に。ヒノキは2月の減少から3月、4月は横ばいに。カラマツ、エゾ・トドは3カ月連続減少。

## モニターからのコメント

## (伐採動向)

- ・トドマツの間伐を実行中。弊社の地方は冬期でも穏やかな天候に恵まれ、雪は少なく推移している。このため伐採は順調に進んでおり、伐採動向はやや増加（北海道）。
- ・国有林のトドマツ間伐の立木販売物件を施業中（北海道）。
- ・国有林の主伐が終了したので、民有地の主伐を開始した（東北）。
- ・スギ、ヒノキとも伐採していない（中部）。
- ・岡山県下は例年より降雪が少なく順調に出材できている（中国）。

## (出材・販売動向)

- ・カラマツ、トドマツ等の針葉樹合板材、一般製材用流通材、原料材に不足感がある。このため、販売はやや増加傾向だが、運材車の手配ができない場合がある。また、3月下旬から6月までは融雪期のため林道が通行止めとなるため、翌々月より販売が減少する（北海道）。
- ・トドマツの出材調整なし（北海道）。
- ・出材調整はなし（東北）。
- ・スギ、ヒノキの主伐を実施中。カラマツはなし（中国）。

## (手持ち立木在庫)

- ・伐採量に応じて手持ち立木在庫は減少している。6月から始まる国有林の立木公売で手当てする予定（北海道）。
- ・実行分だけトドマツの手持ち立木在庫が減少（北海道）。
- ・翌月、翌々月にかけて民有林でのスギ・ヒノキの間伐、皆伐が増える見込みで、在庫は増加（関東）。
- ・スギ、ヒノキ、カラマツとも手持ち立木在庫はなし（中部）。